

火の山地区観光施設再編整備 ブランドコンセプト

HINOYAMA HERITAGE PARK

ブランディング名称

HINOYAMA HERITAGE PARK

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美

そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった

「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所

公園ブランドのキーワード

HERITAGE 受け継がれる特別なもの

受け継がれる特別なものとは？

1. 文化的景観(cultural Landscape):

→人間と自然との相互作用によって生み出された景観

・歴史の舞台となった景観、流通往来の景観、戦跡遺構

→その景観への眼差し

・火の山展望台の発展、観光地としての発展

2. 自然の環境(natural Environment):

→海峡の自然地形・自然現象

・地形、地質、海流、微気候

→森が育む動植物群系

・極相林としての照葉樹林、生息動物

3. 市民の活動(civic Activities):

→「火の山」での思い出(過去の活動)

・アスレチック、回転展望レストラン、ロープウェイなど

→市民の活動がつくる「火の山」(現在も進行している活動)

・余暇活動、イベント活動、ボランティア活動、歴史学習

ブランドのメッセージ

「火の山」で受け継がれる感動体験

- 関門の旅は、「火の山」から始まり、「火の山」で終わる

→いつ来ても、「特別な海峡景色」が体験できる場所 (EB & IB)

- 「火の山」だからできる、特別なことがある

→まちなかではしづらい「特別なアクティビティ」にチャレンジできる公園 (IB)

- 世界の成り立ちが「火の山」で学べる

→自分たちが生きている世界のしくみが学べる場所 (EB & IB)

※地学、地理学、生態学、地政学、経済学、世界・日本史、地域教育、平和教育など

- 特別な旅も、日々の暮らしも楽しい「火の山」(※)

→観光客に垣間みえる市民の活気も新鮮な体験 (EB)

→特別な旅の目的地に選ばれる、下関自慢の場所 (IB)

(EB) エクスターナルブランディング: 海外、国内の観光客にむけたブランディング発信

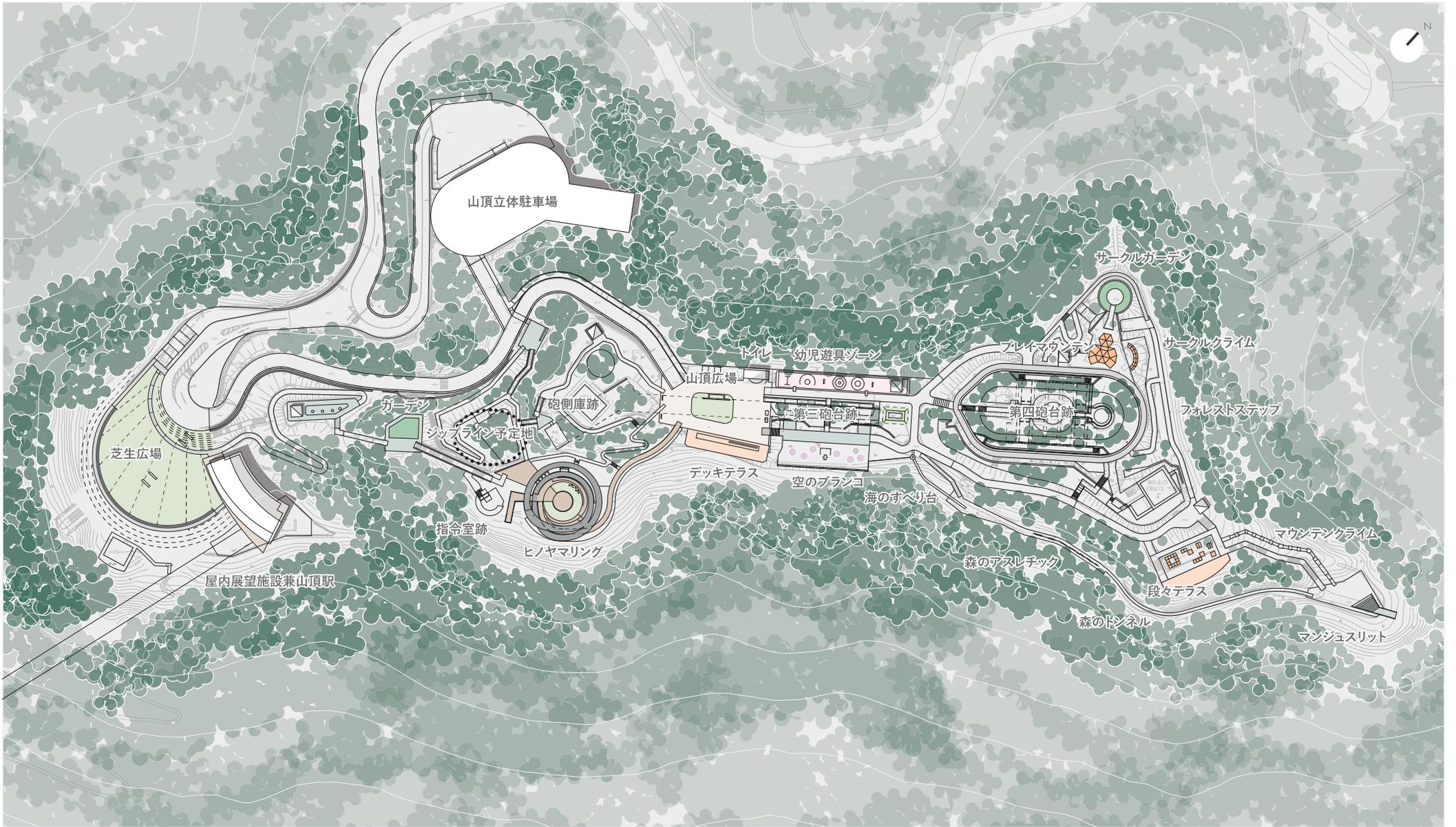
(IB) インナーブランディング: 下関市市民に向けたブランディング発信

(※) このメッセージは公園が完成して市民の公園利用が活発化してくる数年後に発信



火の山公園全体平面図 S=1:4000





山頂公園ゾーン平面図 S=1:1500





山麓公園ゾーン平面図 S=1:1500

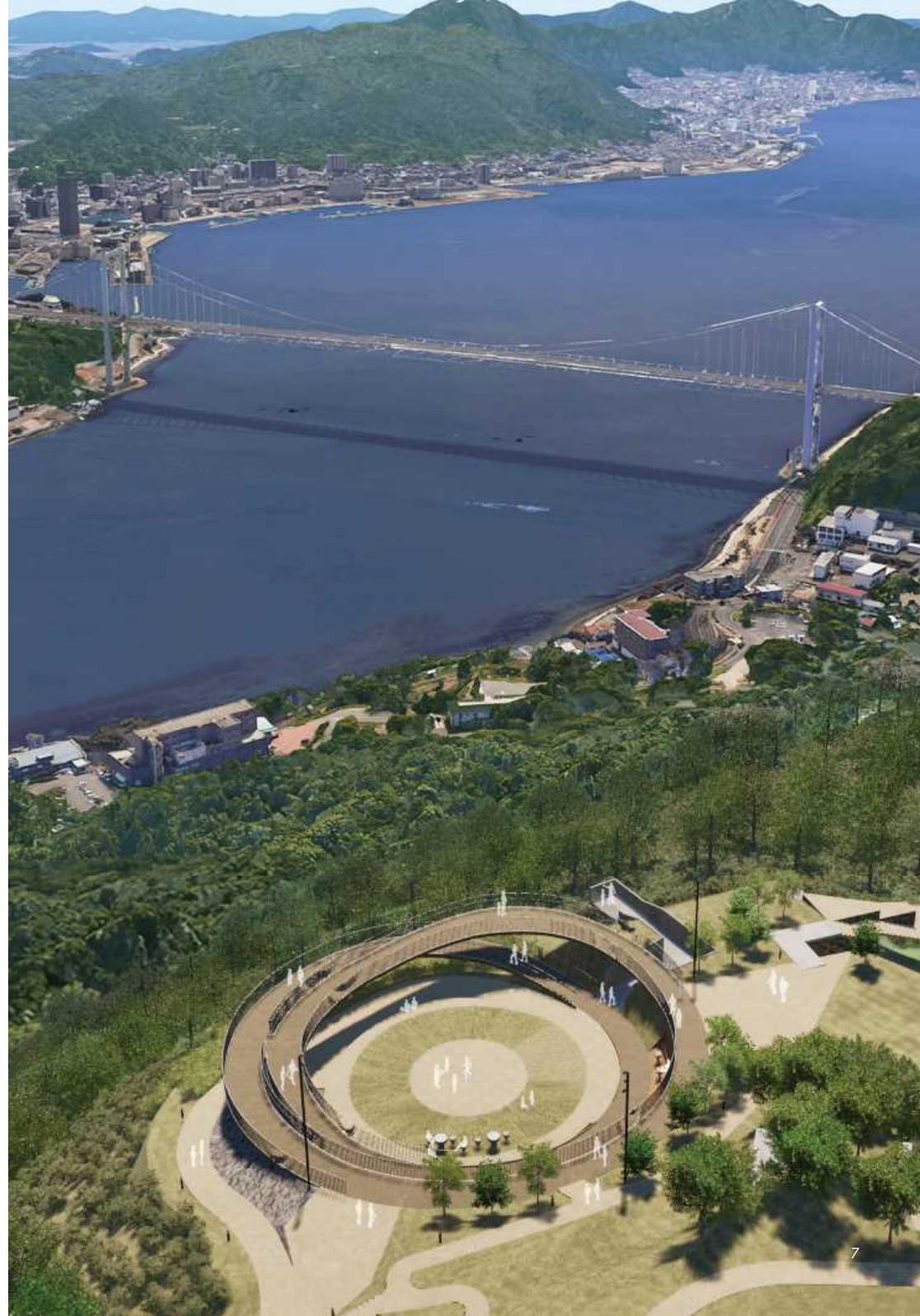


特別な海峡景色

関門の旅はここから始まりここで終わる

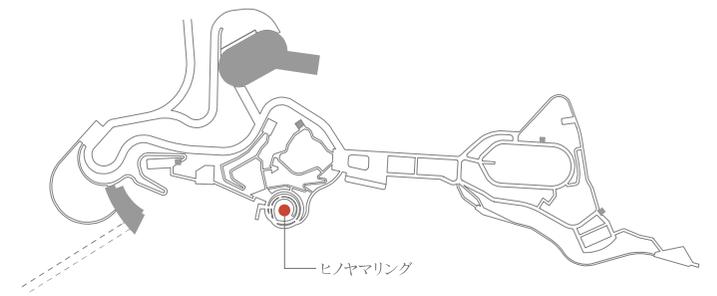
ガイドブックで見つけた気になるあの場所、「ヒノヤマリング」は旅の出発点
山頂で見つけた景色は次の目的地、仲間と楽しい旅の作戦会議が始まる

きらめく関門橋に船の汽笛が響く、夜の関門海峡
楽しい旅はもうすぐエンディング、心に刻む海峡景色





空中に浮くヒノヤマリングを上下に巡りながら、変化する海峡景色を楽しむ

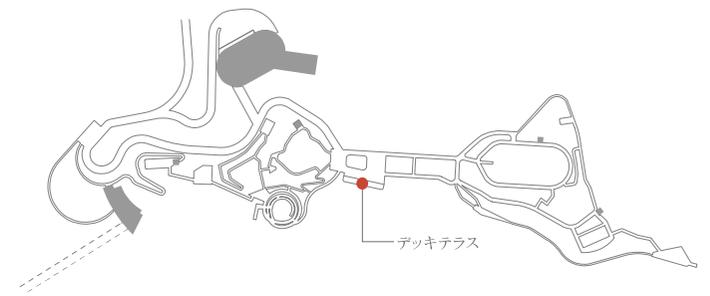




家族、友人数人で横並びになって海面のうつろいを眺める、語らいの場所



大きなベンチは、海峡景色を背景にみんなかくつろぐ場所



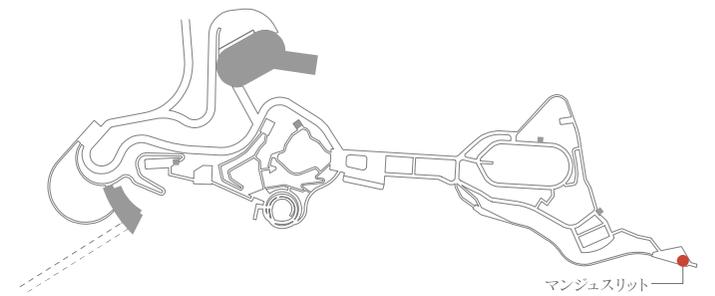
key plan



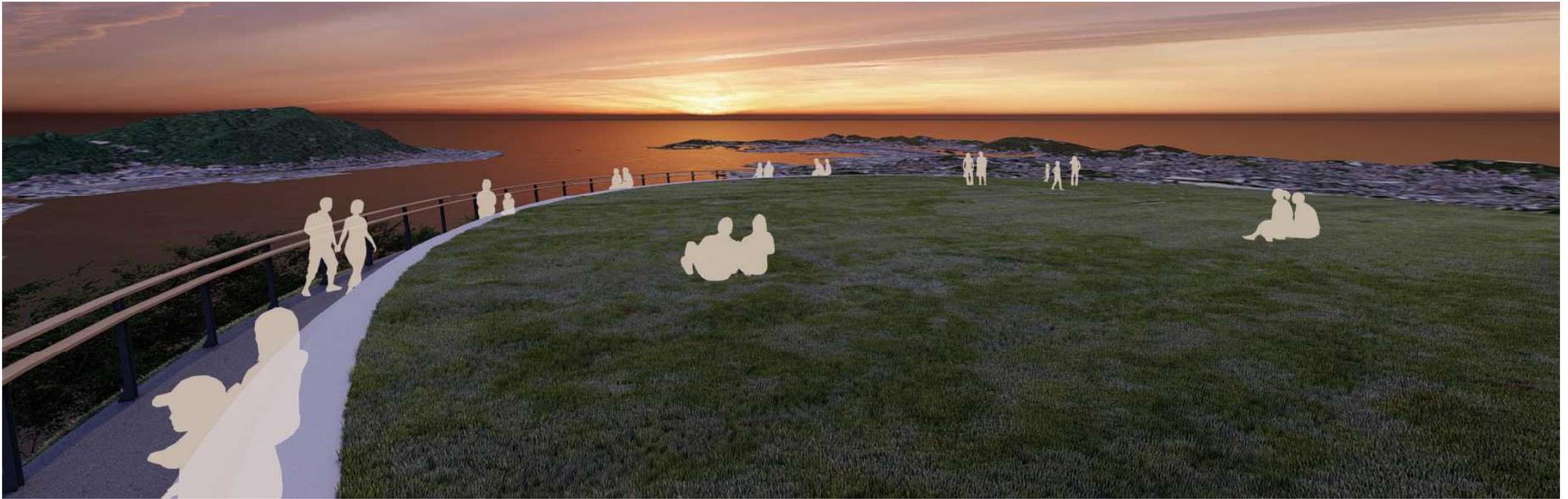
森を分け入って公園の端まで足を延ばすと現れる眺望スポット、地面に掘り込まれた園路の先は満珠島に向けられている



数々の伝承がのこる島、源義経が陣を構えたとされる海域に、私たちは時を超えて思いを寄せる



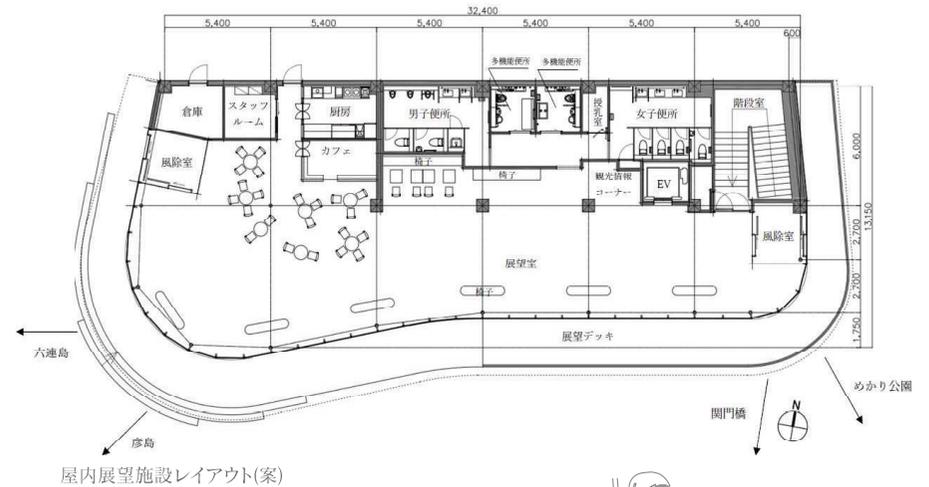
key plan



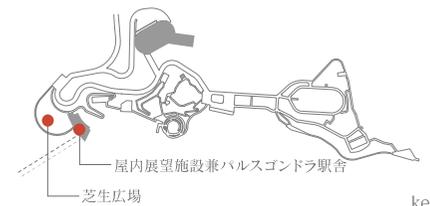
海峡から響灘に広がるパノラマ眺望、朱色に染まる日本海の風景に時を忘れてその場に行む



稜線になじむ、やわらかな形状・色味の屋内展望施設



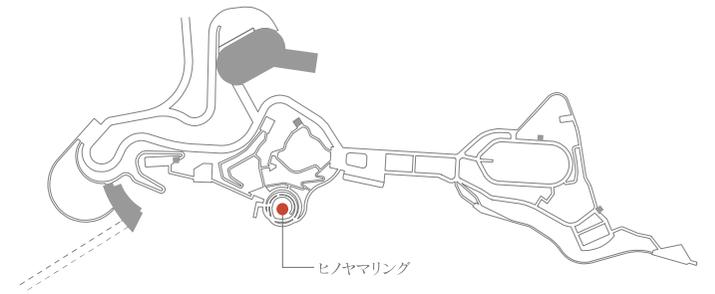
屋内展望施設レイアウト(案)



key plan



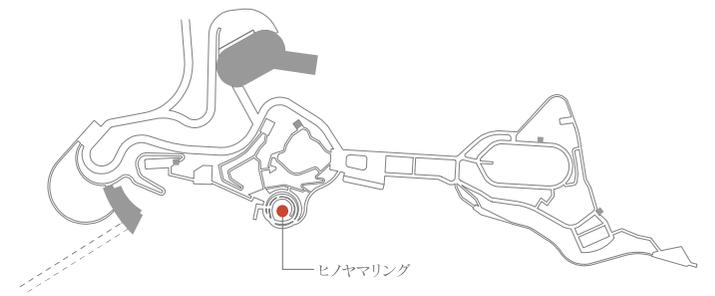
夜にうっすら浮かび上がる光のリング。二人でリングを巡りながら、夜空ときらめく街に心奪われる



key plan



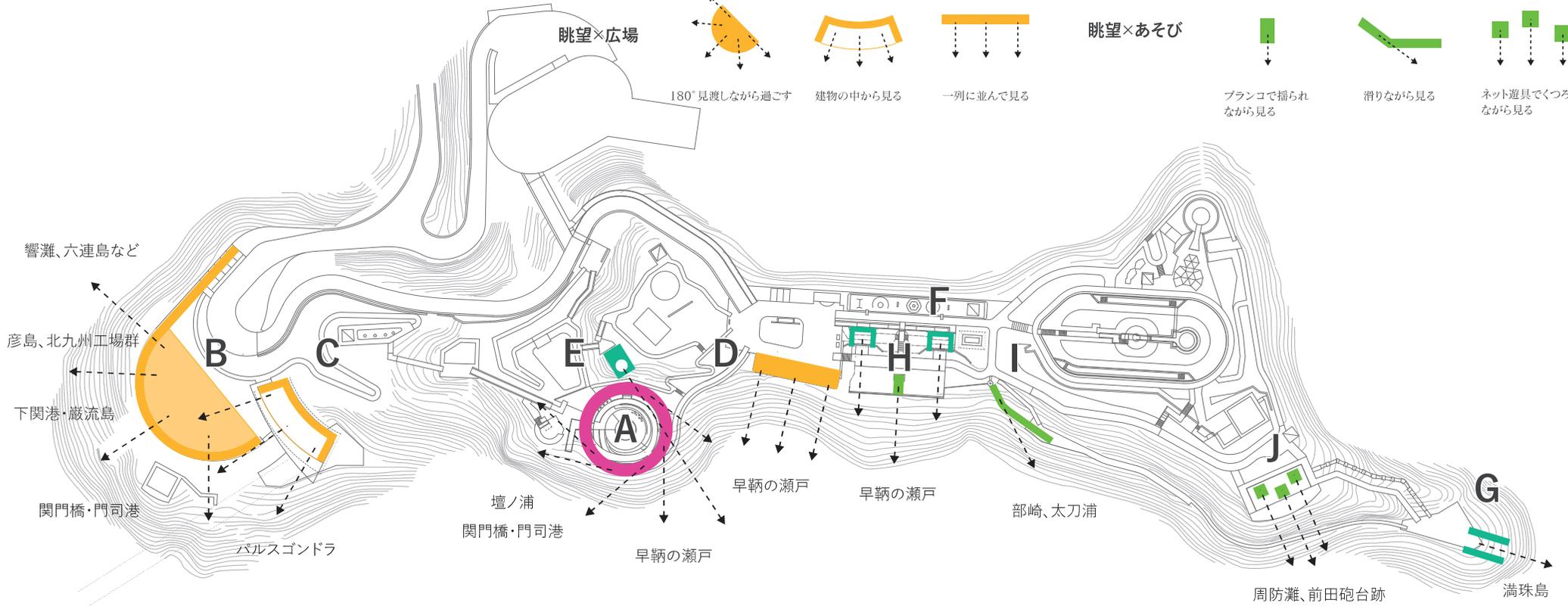
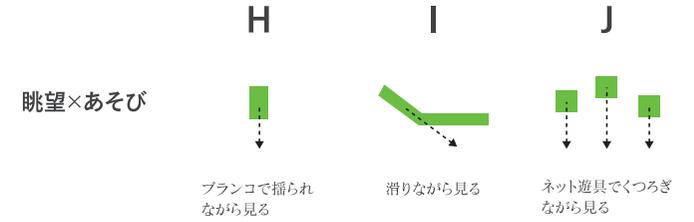
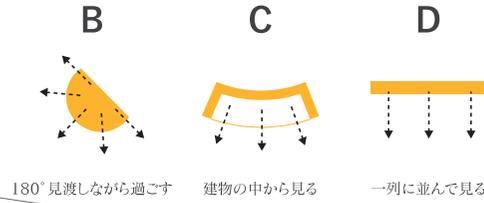
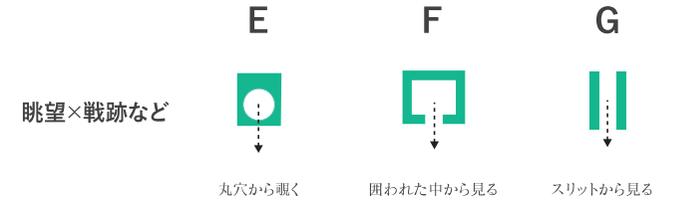
みんながお勧め、下関夜景の定番場所



key plan

多様な眺望を生み出す仕組み

- ・眺望の方角および画角（パノラマ、スリット、のぞき穴）
X
- ・造形の違い（シンボル、室内、屋外、遺構、遊具）
X
- ・活動の違い（立つ、座る、遊ぶ、集まる、）



特別な遊びなら

「火の山」だったらできる

週末に子供と約束「火の山」へ

野を駆け、山駆け、空を駆け、「火の山」デビューは成長の印

誰かのために、ここでしかできない遊びをつくる

ここはみんなの「やってみよう」が挑戦できる場所

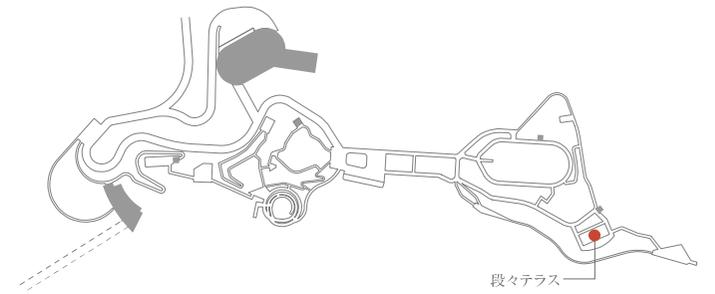




周防灘のさわやかな海風に吹かれ、ネットやハンモックに寝そべて青空に浮かんでみる



段々状の芝生テラスで穏やかな景色に心癒され、時間を忘れてのんびり過ごす昼下がり



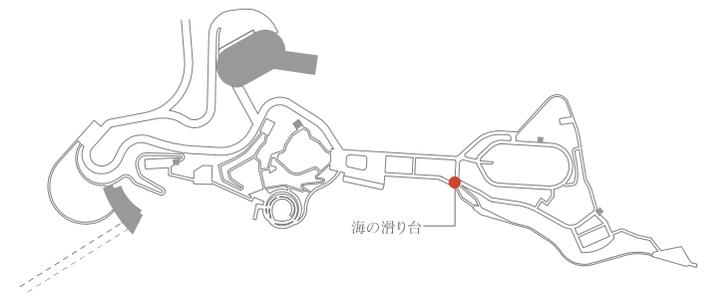
key plan



滑り台の頂上で、周りを見渡すと違った景色が見えてくる



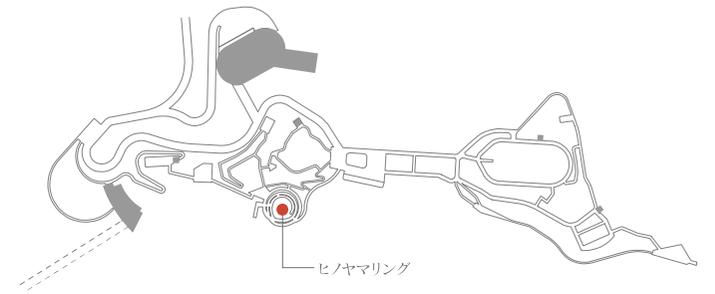
森を抜け海に伸びてゆく滑り台、海風を全身に浴びて周防灘に飛びこんでみる



key plan



美しい星空の下、ヒノヤマリングで焚火を囲んで仲間達と本音で語らう夜



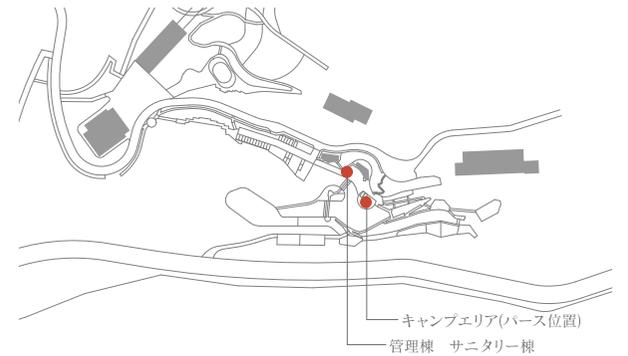
key plan



仲間たちと手軽にできるキャンプ場、外のキッチンで作る楽しい夕食づくり



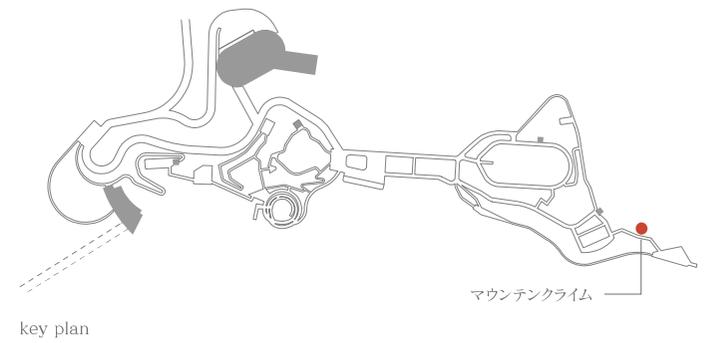
関門海峡に向けてテントを設営、今日は家族で海峡ビューを独り占め



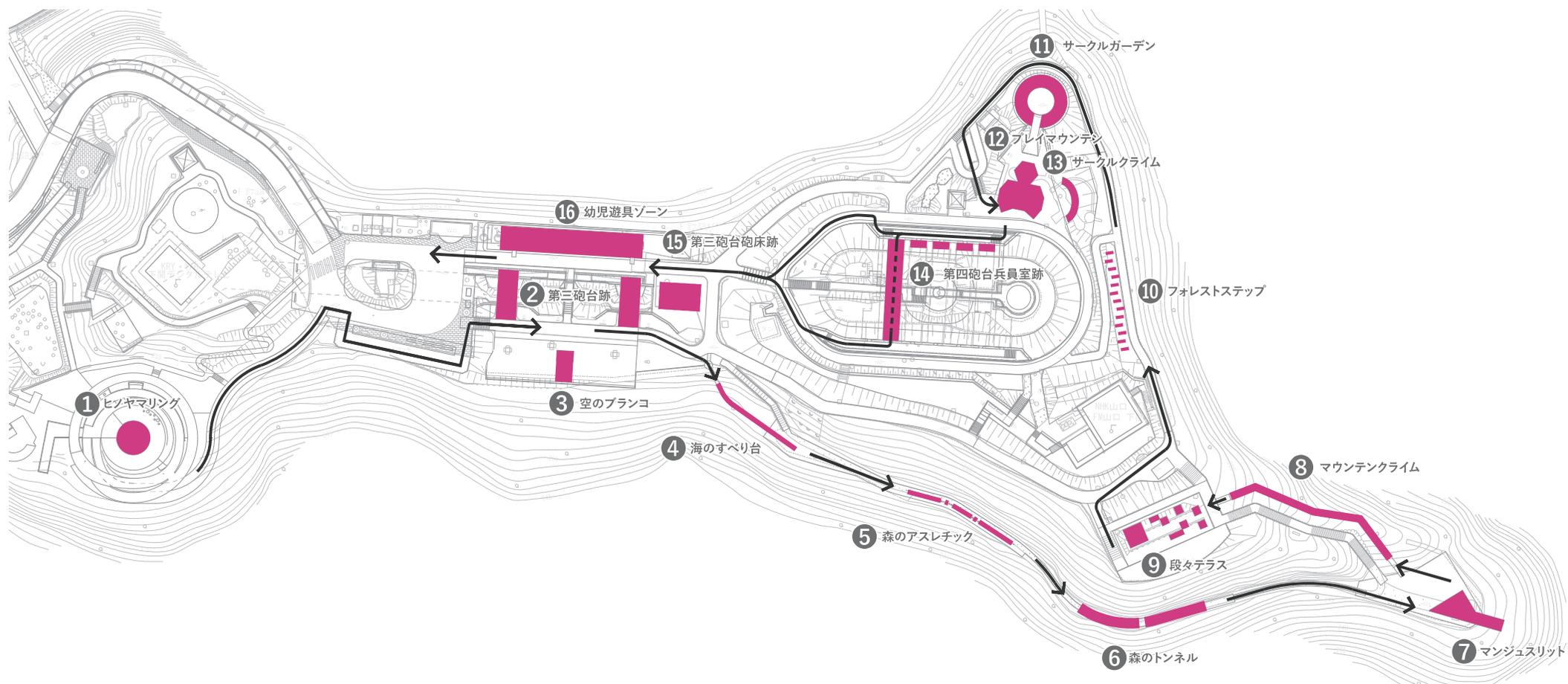
key plan



海から山に駆け上がるアスレチック、振り返るとそこは大海原



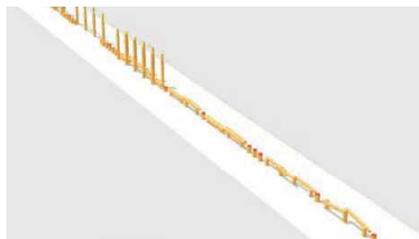
眺望や戦跡と一体となった遊びのルート



眺望や戦跡と一体となった遊びのルート



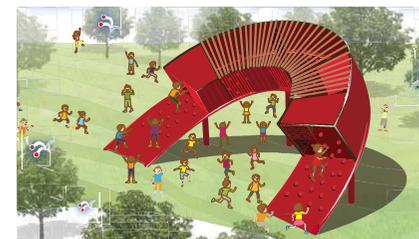
① ヒノヤマリング



⑤ 森のアスレチック



⑨ 段々テラス



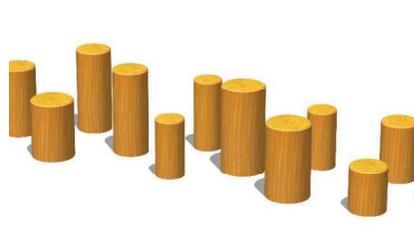
⑬ サークルクライム



② 第三砲台跡



⑥ 森のトンネル



⑩ フォレストステップ



⑭ 第四砲台兵員室跡



③ 空のブランコ



⑦ マンジュスリット



⑪ サークルガーデン



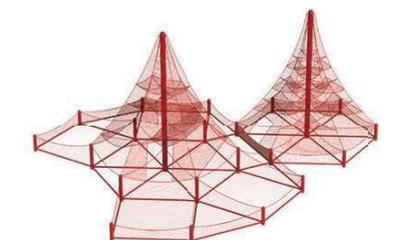
⑮ 第三砲台砲床跡



④ 海のすべり台



⑧ マウンテンクライム



⑫ プレイマウンテン



⑯ 幼児遊具ゾーン

好奇心に火をつける

「火の山」から世界の成り立ちがわかる

「火の山」は栄枯盛衰の歴史を見つめてきた

古代神功皇后の世から平家滅亡、巖流島の決闘、維新動乱、海峡防衛

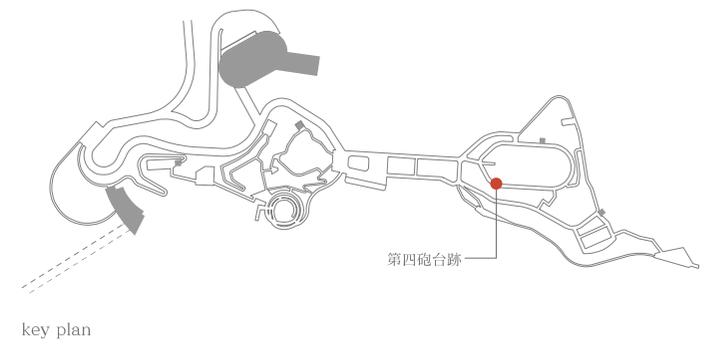
今は毎日、幾百の船や3万余台の自動車が行き交う海と陸の交差点

時と空間を超え世界の成り立ちに思いをはせる





第四砲台の形跡をたどりながら、近代日本の歩みに思いをはせる

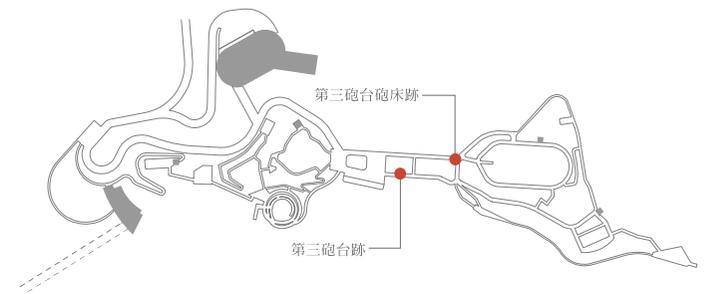




サクラが咲く杜に佇む第三砲台跡



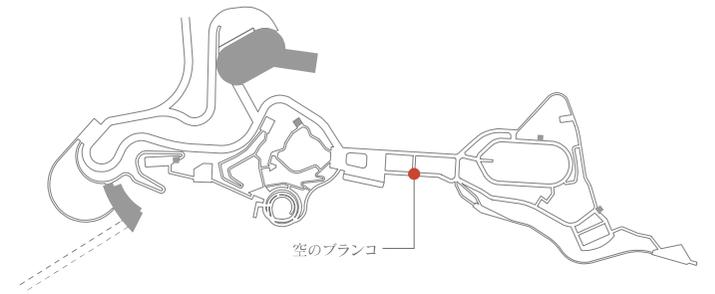
砲台の形跡は遺構の全体像を浮かび上がらせる



key plan



戦跡とブランコ、その対比から世紀を超えた時の移り変わりを実感する



key plan

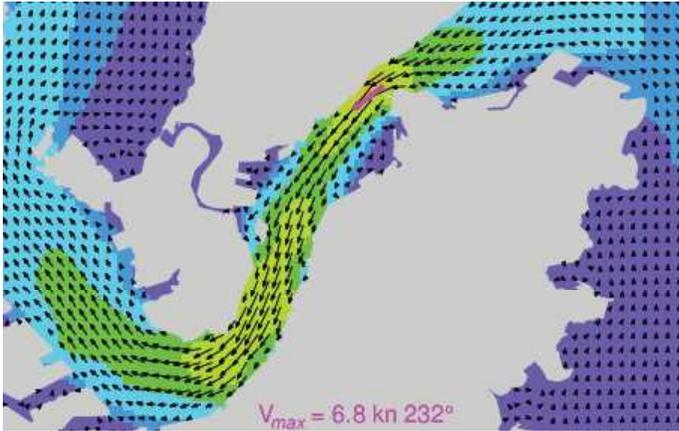
火の山から世界を俯瞰する

見る方向を変えれば世界のしきみが見えてくる

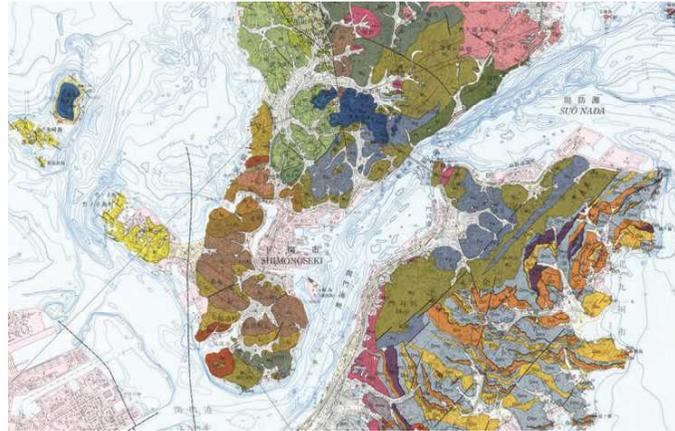


火の山から世界を俯瞰する

見る方向を変えれば世界のしくみが見えてくる



Oceanography: 海洋学(※1)



Geology: 地質学(※2)



Ecology: 生態学



Global history: 世界史



Japanese history: 日本史(※3)



Economic geography: 経済地理学

※1) 海洋情報研究センター, "MFC潮流予測", <http://www.mirc.jha.or.jp/cg-bin/w-1cp?AREA=kanmon>, 2023.11.20アクセス

※2) 地質調査所 (現 産総研 地質調査総合センター) https://www.gsj.jp/data/50KGM/JPG/GSI_MAP_G050_14034_1998_200dpi.jpg, 2023.11.20アクセス

※3) 歌川貞秀 作「源平八島権之浦長門海峡合戦之圖」 <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Battle-of-Akama-Strait-at-Dan-no-Ura-in-Choshu-1185.png?uselang=ja#%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%82%B9>, 2023.11.20アクセス

ここに訪れるみんなが主人公

特別な旅も、日々の暮らしも楽しい公園

週末に「ヒノヤマリング」でサークル仲間と楽器の練習会

夫婦で関門の旅、「ヒノヤマリング」から聞こえてくるメロディーは思い出の曲

秋空の下、みんなで植え付けたチューリップ4万株

旅行の目的地、市民がつくる自慢の海峡花景色

